

科目名	日本語コミュニケーション (留学生科目)	教員名	ふじた 藤田 まもる 守	開講 コース	作物生産	1年次	前期
<p>・目的と内容</p> <p>円滑なコミュニケーションをとるためには自然な日本語の「音」の把握が当面の重要課題である。確かなコミュニケーション能力を身につけ、生きた言葉として日本語を運用できるようになるためには、第一に正しい発音と基本語彙、構文力をひとつひとつ確実に身につけなければならない。</p> <p>従って、発音の仕方を充分理解し、「聞く」「発音」の動作をくり返し「音」に慣れてもらうことに、授業の力点を置く。テキストの音声教材のシャドーウィング(発音の聴取と同時に復唱)することで、音声から自然な日本語を学習する。そうした基礎的な積み上げにより日常会話ができるようになるのである。仕上げとして、ディクテーション(書き取り)によるヒアリングの訓練も合わせて行う。</p>							
<p>・授業計画[単位数:2単位、授業週数:15回]</p>				<p>2コマ連続授業</p>			
<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 生活会話(1)</p> <p>3. 生活会話(2)</p> <p>4. 第1課(1)何時ですか</p> <p>5. 第1課(2)誕生日はいつですか。</p> <p>6. 第2課 何ですか。</p> <p>7. 第3課・第4課 良子さんの部屋は広いですか</p> <p>8. 第5課 どこにありますか。</p> <p>9. 第6課 お仕事は何ですか。</p> <p>10. 復習 第1課~第6課</p> <p>11. 第7課 お酒を飲みました。</p> <p>12. 第8課 どうでしたか。</p> <p>13. 第9課 いろいろな規則</p> <p>14. 第10課(1)なにをしていますか。</p> <p>15. 第10課(2)どうやって行きますか。</p>				<p>16. 中間試験</p> <p>17. 中間試験の解答と復習</p> <p>18. 第11課(1)自己紹介</p> <p>19. 第11課(2)私の家族</p> <p>20. 第12課(1)料理教室</p> <p>21. 第12課(2)絵を描いてください。</p> <p>22. 復習 第7課~第12課</p> <p>23. 第13課 どう思いますか</p> <p>24. 第14課 誰の日記ですか。</p> <p>25. 第15課 いい部屋を紹介してください。</p> <p>26. 第16課 病院</p> <p>27. 第17課 結婚するそうです。</p> <p>28. 第18課 留学生の生活</p> <p>29. 期末試験</p> <p>30. 期末試験の解答と復習</p>			
<p>・講義の進め方</p> <p>演習形式で進めていく。このため、新出語句、発音などは十分に準備して望むと効果的である。復習と予習は、テキストのCD音声教材をよく聴き、復唱し、音声から自然な日本語をインプットする方法で、必ず行っておくこと。日本人と円滑にコミュニケーションをとるためには必須である。なお、当然のことながら授業はすべて日本語で行う。</p>							
<p>・試験と成績評価</p> <p>評価の内訳は、前期に行われる中間試験、期末試験から総合評価する。なお、必要に応じてレポート課題を課す場合がある。</p>							
<p>・担当教員から受講生諸君へ</p> <p>授業に臨む際あらかじめレポート課題をこなしきちんと予習してきたことを示すこと。語学学習には予習復習そして暗記が鉄則だからである。このときは必ず付属のCDを用いること。1日最低2時間は日本語の勉強時間を確保し、毎日勉強すること。これらは検定合格には必須要素である。演習はそれを前提に行う。日本語能力試験N2に合格する意志で臨むこと。</p>							
<p>・使用教材</p> <p>教科書:『絵入り日本語作文入門』C&amp;P日本語教育・教材研究会編(専門教育出版) 『楽しく聞こう』文化外国語専門学校編(凡人社)</p> <p>参考書:授業時に紹介する。</p>							